

一光



伝道庁ウェブサイト

既に誌面にて何度かご紹介させていただいておりますように、「Stories Inspired by Oyasama」動画が視聴できます。また昨年行われました「Soul Fire」の記録ビデオもご覧いただけます。さらには本年執り行われます「伝道庁創立 90 周年記念祭」の情報も随時アップデートしておりますのでどうぞご利用ください。各コンテンツへのアクセスについては、誌面の伝道庁連絡内に記載していきます。

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.915

FEBRUARY

2024



tenrikyo.com



つらつらせんがく 熟々浅学



— 陽が昇る —

今年1月1日に日本の能登半島で大地震が発生し、その翌日には羽田空港で飛行機事故がおき、日本は大変な年明けとなりました。世界に目を移せば、昨年、大きな災害に遭っている国々があり、現在も東ヨーロッパでは戦争が続き、紛争が続いている国々があります。世界が治まり、早期に陽気ぐらし世界を見せていただけるように願うばかりです。

能登半島での災害に対して天理教災害救援ひのきしん隊が出動されました。その支援として、先月の伝道庁春季大祭時より募金活動を始め、伝道庁3月月次祭まで募金活動を継続しますので、ご協力をお願い致します。尚、全ての募金は4月に「天理教災救隊ひのきしん隊基金」に届けます。

さて、先月26日、本部では、教祖が明治20年陰暦正月26日に、人間の成人を促すために定命を25年お縮めになられて現身をお隠しになられたことを偲んで春季大祭が始められました。そして、その日より教祖は御存命のまま世界たすけに踏み出されました。そのことを忘れずに、これからもをいかけ、おたすけに励みたいものです。また、伝道庁創立90周年記念祭まで約4ヵ月となりました。管内の教友の心が一手一つとなって記念祭を迎え、意義のある記念祭、将来に繋がる記念祭にしたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、時折、伝道庁で停電が起きます。現代のロサンゼルスで停電が起きるとは考え難い方もあるでしょうが、昨年(2023年)も何回か停電がありました。

停電しますと、まずは伝道庁前の交差点の信号機を確認します。もし、信号機が作動していなければ、伝道庁周辺一帯の停電であることが分かりますし、信号機が普段通り作動していれば、伝道庁内だけの停電と分かります。

停電の原因はさまざまですが、一度は近くの電線が古かったためなのか、火花が散って断線したことが原因で、この修理には数時間を要しました。ちょうど、タづとめ前の停電だったので、タづとめ中は、スマートフォン(以下、スマホ)を懐中電灯のようにして上段を照らして勤めましたが、その後も数時間に亘って停電が続いていました。

一度は、夏の暑い日で、どこでもクーラーを点けなければ「やってられない」という状態の時でした。ニュースでもクーラーを使用して過ごすようにとの報道があったこともあり、多くの方がクーラーを使用していた時で、そのような日の午後突然、停電しました。いつものように伝道庁前のファースト・ストリート(First Street)に出て信号機を確認しましたが、作動していませんでした。しかし、3ブロックほど西側にあるソト・ストリート(Soto Street)の交差点を眺めた時、その信号機は作動していましたので、伝道庁周辺一角の数ブロック内のみでの停電だったようでした。車で3分ほどの距離にある伝道庁と同じ地区の教会では停電はなかったのです。たぶん、伝道庁前にあるスーパーマーケットが多量の電力を使用したのが原因ではないかと勝手に想像しています。非常に暑かったので、大勢の人が涼みにそのスーパーマーケットに足を運んだため、多量の電力を使用したのだらうと想像しました。スーパーマーケットは急な停電のために自家発電設備を持っているはずなのですが、スーパーマーケット内の電気も消えていました。

その時の停電はタづとめ前には復旧しましたが、その翌日、またも日中に停電が発生しました。その時は3時間程で復旧しましたが、その日、伝道庁前のスーパーマーケットは“自家発電機”を使っていたようで、そのまま営業を続けていました。その日の復旧が早かったのは、スーパーマー

ケットが自家発電機を使用してくれたからではなかったかと、勝手に想像しています。

停電して困るのは、冷蔵庫が冷えなくなることです。中の物が解けたり腐ったりする可能性が出てきます。ですので、停電が起きれば、冷蔵庫を開けないようにして中の冷気を逃さないようにしますが、幸い、今まで食品が腐ることはなかったので助かっています。

また、シャワーは電気式でお水を温めてお湯にしてタンクに貯め、自動で一定温度を保ってくれますので、停電しますとお湯が冷めてしまっています。そのため、夕方の停電の時は停電が発生してから早い時刻にシャワーを浴びなくてはなりません。また、ヘアードライヤーが使用できませんので、頭を乾かすことが出来ず、下手をすると風邪を引いてしまいます。

日中の数時間の停電であれば、インターネットを使っただけの作業ができないぐらいだけで、他の用事を行えば、それほど御用に支障は出ませんが、長時間になると少々困ります。

外が暗くなってからの停電は本当に困ります。ローソクを灯して過ごすことができますが危険です。スマホなど数時間ほど屋内を照らして過ごすことは可能ですが、スマホの蓄電を使い果たせば、それ以上はどうすることもできません。「月明りで過ごす」というロマンチックなことは少し考えられないのです。

停電のことを思う時、「電気」の有難さを感じます。現代社会では「電気」を使うことが多く、何をするにも「電気」がないと困る世の中になっています。

「電気」は発電所が作りますが、そのために火、水、風の御守護が必要です。「電気」は親神様の御守護の「最たる御守護」の“結晶”と言えるのかもしれませんが。

ただ私がここで言いたいことは「電気」の有難さだけではありません。「陽が昇る」有難さです。

昔の人は、毎夜、毎夜、真っ暗な夜を過ごしていたのです。そして、陽が昇る時を待ち侘びていたのではなかったかと思うのです。現代の私たちに想像できないほど、朝陽が昇ることを待ち焦がれていたのではなかったかと思うのです。また、まだ「電気」が普及していなかった頃、夜はランプやローソクを灯して過ごしていましたが、そのような毎日を過ごす中、「月明り」は非常に有難い存在ではなかったかと想像する

のです。

私たちは、親神様の御守護は「月」と「日（陽）」と教えていただき、その存在の有難さを教えていただいています。現在の私たちは、先人の方々が感じておられた「月」と「日（陽）」の有難さと同様に感じていないのではないかと、ふと思ったのです。毎夜、毎夜、真っ暗な夜を過ごすということ、長ければ12時間以上、暗闇の中で過ごすということ、私たちはどれだけ本当に理解しているのか、と思うのです。

もちろん、探検家は何日も電気のない生活をする場合があります。それは例外です。横に置いておきますが、一般人はキャンプに行っても数日間の間を経験するだけです。1年365日、電気のない生活を体験すれば、「陽が昇る」有難さの感じ方が変わるのではないかと想像します。

教祖は、貧のどん底時代に、月明りの下で糸紬をされておられたとお話がありますが、今の私たちは「月明り」の有難さを、教祖や秀司様、こかん様が感じておられていたほどに感じていないのではないかと思います。

そのように考えますと、教祖のひながたでの道中に、現代の私たちでは感じられない、或いは、感じにくい事柄があるのではないかと思います。先人の方々が生きておられた時代に感じておられた「陽が昇り、朝を迎える時の有難さ」は、今の私たちが感じている感度とは、全く違ったものではなかったかと想像するのです。

そのようなことを思った時、現在では難しいかもしれませんが、「おふでさき」を拝読するにしても、「みかぐらうた」を唱和しながら「てをどり」を勤めるにしても、教祖御在世当時や先人が過ごされた時代や環境を加味して理解に努めることが必要ではないかと思うことがあるのです。それができれば、もっとも御教えに対する深い悟りができ、神意の真意が本当に心に治まるのではないかと思うことがあるのです。

深谷 洋

立教 187 年春季大祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、人間が陽気ぐらしするのを見て共に楽しみたいとの思召により、紋型なきところから、この世人間をお造りください、旬刻限の到来と共に、教祖をやしろにこの世の表にお現れになり、だめの御教えをお啓きくださいました。爾来、御教えは世界に伸び広がり、アメリカ、カナダの地にも、教祖のひながたを頼りにたすけ一条の道を歩む者をお与えいただいております。その中にもこの月は、私共人間の心の成人を促すために、教祖が二十五年先の命を縮めて現身をお隠しになられ、世界ろくに踏み出された尊い縁の月に当たりますので、只今より、おばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同、心を一つに合せて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめて、当伝道庁の春季大祭を執り行わせていただきます。

御前には、今日の日を待ちわびて参り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護を頂戴したいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月は、本部春季大祭参拝に管内より教会長を始め、よふぼく、信者が帰参予定ですが、道中無事にお連れ通りいただき、おばの理を頂戴して、勇み心と共に、それぞれが土地所に戻りましてからは、にをいがけ、おたすけに一層邁進できますよう育ての程をお願い申し上げます。

また、来月十七日には伝道庁にて、管内の龍頭となる人々を対象に、教会長夫妻おたすけ推進のつどいを開催予定ですが、教祖百四十年祭年祭活動二年目としての弾みの機会となりますようお導きの程をお願い申し上げます。

私共は、半年後に迫りました当伝道庁創立九十周年記念祭を無事に迎えて滞りなく勤め終えられるように、また、教祖百四十年祭年祭活動の二年目が有意義な年になるように、管内の人々が一手一つとなって心の成人に励み、にをいがけ、おたすけに勤しみ、御教えを世界に伝え広めて、陽気ぐらし世界実現に向けて邁進させていただく所存でございます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいます、世界の人々が欲を忘れて心澄み渡る世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

春季大祭神殿講話

アメリカ伝道庁長
深谷 洋

只今は結構に、当伝道庁の立教 187 年春季大祭を、無事に、そして滞りなく勤め終えることができました、有難く思っております。

話を進めます前に、本年初めてお会いしました皆様に申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

昨年も、お道の上に、また、アメリカ伝道庁の上におつとめくださり、誠にご苦労様でした。本年も、昨年同様、いやそれ以上に、道の御用の上に、また伝道庁の上に、ご尽力賜りますようお願い致します。

本日の春季大祭を終えるに当たり、思いますことをお話して、祭典講話に致したいと存じます。暫くの間、お付き合いますようお願い致します。

ご存知のように、今月 26 日、本部ではかぐらづとめ、てをどりが勤められて春季大祭が執り行われます。そして、先程、本部でのかぐらづとめ、てをどりの理を受けて、当伝道庁の春季大祭を勤め終えたのであります。

春季大祭を勤める意義は、教祖が明治 20 年陰暦正月 26 日、子供である人間の成人を促すために、定命を 25 年お縮めになられて現身を隠されたことを偲んで勤めるところにあります。

ですから、その理を受けて勤めている伝道庁の春季大祭も同様の意味を込めて勤めているのであります。

何故、教祖は現身を隠されたのか。

そのことは稿本天理教教祖伝をお読みいただければ理解して頂けると思います。端的に申せば、明治 7 年頃から教祖が現身をお隠しになられるまでの間、教祖がお望みになられていたかぐらづとめ、てをどりを先人達が勤めると、教祖が警察や監獄所に留置されたり、その可能性が高い状況にあったりしたため、



先人達はおつとめを勤めることを逡巡されていた状況でしたので、それをご覧になられていた教祖は、先人達が憂いなくおつとめを勤められるようにと、現身をお隠しになられたのであります。

しかし、ただ単に教祖は現身をお隠しになられたのではありませんでした。

現身をお隠しになられた直後のおさしづに、「さあ／＼ろっくの地にする。皆々揃うたか／＼。よう聞き分け。これまでに言うた事、実の箱へ入れて置いたが、神が扉開いて出たから、子供可愛い故、をやの命を二十五年先の命を縮めて、今からたすけするのやで。しっかり見て居よ。今までとこれから先としっかり見て居よ。(中略) さあ、これまで子供にやりたいものもあった。なれども、ようやらなんだ。又々これから先だん／＼に理が渡そう。よう聞いて置け。」

(稿本天理教教祖伝、333-334 頁)とありますように、教祖は存命同様に世界たすけにお働きになられることを仰せられ、また、存命中に、なかなか渡せなかったおさづけの理をお渡しくださることも仰せられたのであります。事実、その後、大勢の方々がおさづけの理を拝戴し、それは現在も続いているのであります。

教祖は、姿は見えないだけで、今も世界た

すけにお働きくださされておられます。

一昨年、真柱様のご発布くださった論達第4号に、

「…明治二十年陰暦正月二十六日、子供の成人を急き込まれ、定命を縮めて現身をかくされたが、今も存命のまま元のやしきに留まり、世界たすけの先頭に立ってお働き下され、私たちをお導き下されている。

この教祖の親心にお応えすべく、よふぼく一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高め、仕切って成人の歩みを進めることが、教祖年祭を勤める意義である。」

(論達第4号、2頁)

とあり、また、

「…教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである。」

(論達第4号、3頁)

とも仰せられていますように、私たちは、教祖が今も存命同様に世界たすけにお働きくださっている親心にお応えしようと、三年千日と仕切って教祖140年祭年祭活動を活発に推し進め、そしてその成果を、年祭時に教祖にご覧いただけるようにと努めているのが現在の旬であります。

教祖の思いは、どこまでも世界たすけであります。この世を陽気ぐらし世界へと立て替えたいとの思いで一杯であります。そのことを、私たち、天理教を信仰する者は、しっかりと心に治め、そしてよふぼくとして、教祖の道具衆として世界たすけの歩みを進めるのであります。

そのために、おつとめを勤めるのであり、おさづけの理を取り次ぐのであります。つまり、おたすけをするのであります。

さて、ご存知のように、本年6月30日にアメリカ伝道庁創立90周年記念祭を執り行います。記念祭まで残り5ヶ月間ほどであります。

この記念祭に向けて、スローガンと成人目標を定めたことは、ご承知だと思います。

スローガンとして「家族、友人、コミュニティの人たちと信仰の喜びを分かち合おう！」とし、そして3つの成人目標を定めました。

本日は、その一つである「人だすけに励もう！」の成人目標に関する「おたすけ」について話したいと思えます。

天理教の「人だすけ」とは、「心をたすける」

ことであり、ひいてはそれが、悪いんねんを切り替えることに繋がり、そして、陽気ぐらしへと続くのです。

論達第4号に、

「…家庭や職場など身近なところから、にをいがけを心掛けよう。身上、事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治まりを願い、病む者にはおさづけを取り次ぎ、真にたすかる道があることを伝えよう。」

(論達第4号、6頁)

とあります。

先ずは、皆さんの周囲を見渡していただき、身内や職場など、皆さんが日頃接する人々で、まだ天理教を信仰していない方がおられるなら、声を掛けていただきたいのです。面と向かってお道のお話をしなくても、お道の教えを土台とした話をして、少しでもにをいがけを心掛けていただきたいと思うのであります。

そして、もし、身近に身上や事情で苦しんでいる人がおられるのなら、先ずは、その人の胸の内を聴いていただきたいのです。

身上や事情で苦しんでいる人に対して、お道のお話を伝えて何とか救かってもらいたいと思うお道の人は多いでしょう。しかし、そこを少し抑えて、先ずは相手の話を聴いて、その方の胸の奥に溜まっている“澱”とでも言えるモノを取り除いていただきたいのです。

例えば、泥水が縁(ふち)まで一杯になっているコップがあったとしましょう。このコップが“胸の内”であり、泥水が身上や事情の“原因”と思ってください。

この泥水を取り除きたいと思って、そのコップに“教え”という清水(せいすい)を注いだとしましょう。つまり、救かってもらいたいと教えを伝えるという意味です。

しかし、泥水に満たされたコップに清水を注いでも、泥水は薄まることはあっても、コップ内の泥水が完全に清水に入れ替わることはありません。もし清水だけでコップを満たしたいのであれば、コップ内の泥水を取り除き、その後、清水を注ぎ入れることが必要になります。

“胸の内”というコップ内の“泥水”を取り除く一つの方法は、身上や事情を頂戴している人の胸の内を聴かせてもらうことだと思えます。つまり、胸の内に溜まっている“泥水”である愚痴や不足を聴いて取り除くというこ

とです。それは、論達第4号にあります「親身に寄り添う」ことであると思うのです。

その道中で、たすかりを願ってお願いづとめを勤めることもあるでしょうし、身上者におさづけの理を取り次ぐこともあるでしょうが、その時に大切なことは、身上や事情の原因の根元である心のたすかりを願い、その先にある悪いんねんの納消を目指すことだと思うのです。

そのために、身上、事情を抱えている人の胸の内を聴いて“泥水”を取り除き、その後に教えを伝えて心に治めてもらうことが肝心だと思うのです。天理教を信仰すれば心をたすけてもらえ、また、悪いんねんを切り替えられるのだと知ってもらい、たすかる道へと誘(いざな)うのです。そして、いずれは、世界たすけのために共に行動できるよふぼくになってもらえるように導いて行くことが肝心だと思うのです。

次のような話が、昨年11月号「みちのとも」の「特集」に掲載されてありました。

ある他宗教の2人が湖で溺れていた女性を助け、その女性の家族から大変感謝されて良いことをしたと喜んでいました。しかし後日、その女性が「私の心を誰も分かってくれない」と自ら命を絶ってしまったと聞いたのです。「命は助けたものの、心までは救えなかった」と悔やみ、その他宗教の方が「心の救い方が分からない」と天理教の教会長に相談に来られたというのです。

この話は、いろいろな示唆に富んでいます。

私たちはどうしても身上や事情の救済に目が行ってしまいます。身上のたすかりや事情の解決は、もちろん大切なことです。しかし、天理教の本来のおたすけは、そこに留まりません。心のおたすけであり、悪いんねんの納消から白いんねんへ、つまり善いんねんへと切り替えて行くところにあります。

真柱様は、昨年の本部秋季大祭後の「あいさつ」で次のようにお述べになられました。

「…教祖は、五十年もの間、どんなことが起こっても諦めることなく、丹精し続けられたということを、これもひながたとして忘れてはならないことなのではないかと思うのでございます。」

(立教186年12月号「みちのとも」、6-7頁)

教祖は50年もの間、丹精を続けて先人達を



お導き、お育てくださったと仰せいただいています。これもひながたであると。

「人だすけ」と一言で言っても年限が掛かります。それはちょうど子供を育てるようなものであると思うのです。何十年と掛けて、子供が大人へと成人できるように導き育てることとよく似ていると思うのです。

そのように考えますと、教祖は立教以来50年もの間、教祖のご家族、親族を含め、先人達の丹精を続けておられていたと言えると思うのです。

また、教祖は今もご存命のまま世界たすけにお働きくださっておられるのでありますから、現在の私たちの丹精もされていると思うのです。

このように考えますと、教祖が私たち人間に掛けておられる親心は、並大抵なことではないことが分かります。

教祖と同様な人々への丹精は難しいでしょうが、しかし、教祖がされた丹精を手本にして、コツコツと身上、事情で困っている人が心からたすけていただけるように導く努力は怠ってはならないのではないのでしょうか。

真柱様は、昨年の天理教青年会総会のメッセージで次のようにお述べになっておられます。

教祖は、親神様の存在を信じない人々には、

不思議なたすけを通して、疑い深い人々の心を開き、人間を造った親神様の元の思いを伝えて、その人の心が人をたすける心に立て替わって陽気ぐらしが実践できるようになるまで、根気よく導いておられるのです。それに倣って、私たちも、日ごろからにをいがけを心がけ、身上・事情で悩む人には一心におさづけを取り次ぎ、あるいは、おつとめを勤めてご守護を願い、その人の心に教えが治まるまで心を尽くしていくことが大切であり、それがお道のおたすけなのであります。そうして、自らが神一条の心で教えの実践に励んで、陽気ぐらしをする人が増えてくる。それが、たすけ一条に働くということなのです。

(立教 187 年 1 月号「みちのとも」、6 頁)

たすけた人の心が立て替わって陽気ぐらしが実践できるようになり、いずれ他の人をたすけられるようになるまで導くことが天理教のおたすけであると思うのです。それが私たちの目指す「人だすけ」であります。

このことを忘れずに、成人目標の「人だすけに励もう!」を実行していただければ嬉しく思います。

さて、少し話を変えます。

昨年、教祖 140 年祭に向けて、同じ地域に住むよふぼくが一緒に活動しよう各地区で「ようぼく一斉活動日」が行われました。本年 6 月初旬に第 2 回の「ようぼく一斉活動日」が開催される予定になっていますので、それぞれがお住まいの地区責任者に連絡を取って、日時、会場を確認していただきたいと思えます。そして、一人でも多くの方にこの活動に参加していただきたいと思っていますので、どうぞ宜しくお願い致します。

最後に、先に述べましたように、今年 6 月 30 日に伝道庁創立 90 周年記念祭を執り行います。また、前日の 29 日には、天理教婦人会長の中山はるえ様、天理教青年会長の中山大亮様をお迎えして、アメリカ婦人会・アメリカ青年会創立 70 周年記念合同総会を開催します。

記念祭に向けて定めたスローガンと成人目標を心に置いてそれらを実行して、記念祭当日には成人した姿をお見せして、少しでも親神様、教祖にお喜びいただけるようになりたいと存じます。これから約 5 ヶ月間、管内教友が一手一つになって、心の成人の道を歩み、

当日は一人でも多くの方に参集していただき、晴れやかな気持ちで記念祭を迎えたいと存じます。

また、前日のアメリカ婦人会・アメリカ青年会の記念合同総会に、一人でも多くの婦人会員、青年会員に参加していただけるよう、各会会員をお誘いしていただきたいと存じます。

以上のことをお願いして、本日の私の話を終えたいと存じます。

ご清聴有難うございました。



信仰の喜びを分かち合おう！ 私の 90 周年記念祭

そして教祖 140 年祭へ向けて

『ポジティブなひのきしん精神を養う』

伝道庁参拝場に設置されている長椅子を、創立 90 周年に向け、ハイジャスタ布教所の浜田准一所長が塗装を塗り直してくださっています。ありがとうございます！





伝道庁連絡



春季大祭

祭主 庁長
 扨者 川上和海 雪本 善
 賛者 小島ブライアン 田所レイ
 指図方 鳥澤繁實
 神殿講話 庁長（英）

教会事情

ユタ教会：任命願、臨時祭典願
 おはこび：2024年3月26日予定
 教会長：大林昌代
 奉告祭：2024年4月21日
 加奈陀教会：臨時祭典願、恒例祭日臨時変更願
 おはこび：2024年4月18日予定
 創立90周年記念祭：2024年12月1日
 シカゴ教会：任命願、臨時祭典願
 おはこび：2024年4月18日予定
 教会長：木村陽介
 奉告祭：2024年7月28日
 台壇教会：移転願、臨時祭典願
 おはこび：2024年4月26日予定
 教会長：ソー・リン・ミツノ
 鎮座祭：2024年7月27日
 奉告祭：2024年7月28日
 住所：632 E Pinatado Rd,
 Danville, CA 94526
 オンタリオ布教所：住所変更
 新しい住所：25 Tyndall Ave. Unit 1,
 Toronto ON M6K2E8 CANADA

ようばく一斉活動日

各地区責任者は、第2回開催の「計画書」を2024年2月末までに、書記に提出してください。

教会長夫妻おたすげ推進の集い

2月17日（土）午後2時より開催されました。

スリーデーコース

スリーデーコースを2024年2月23日（金）～25日（日）の日程で開催します。英語コースは4名以上の申込み、スペイン語は2名以上の申込みがある場合に開催します。

春季霊祭

3月16日（土）午後7時より、春季霊祭が執り行われます。今回は、大林勝一ユタ教会7代会長の霊様を合祀します。

第85回アメリカ修養会

第85回アメリカ修養会が、2024年7月21日（日）から8月17日（土）まで開催予定です。開講約1ヶ月前（6月16日）までに、英語・日本語クラスは2名以上、スペイン語クラスは5名以上の申し込みがある場合に限り開講予定です。

能登半島地震募金

能登半島での地震災害に対して、3月17日（日）まで、伝道庁事務所に募金箱を設けて募金を始めます。小切手の場合は宛名に「Tenrikyo Mission Headquarters in America」と記入し、メモ欄に「能登地震」と書いてください。尚、現金の郵送はご遠慮ください。

Tax 控除を希望される場合は、封筒に現金又はチェックを入れて封をし、寄付者の氏名、住所、金額と「能登地震」と封筒に書き、募金箱に入れてください。後日、アメリカ伝道庁より感謝状をお送りさせていただきます。

この募金は「能登地震」の災害救援活動に役立ててもらえるよう「天理教災害救援ひのきしん隊基金」に届けます。

祭典役割

現在、おつとめ奉仕者には半年毎に伝道庁祭典参拝の出欠を確認し、また第2日曜日頃までその月の参拝の有無の最終連絡を待っているため、祭典役割の連絡は第2日曜日を過ぎ、多くの方に役割確認の電話を頂戴する状況になっています。そこで、本年（2024年）より、月初めにはその月の祭典役割をお知らせできるようにしています。就きましては、祭典参拝の有無、或いは変更は、参拝予定月の前月月末までに伝道庁に連絡して下さいますようお願い致します。例えば、3月月次祭参拝有無に関しては、今月末（2月29日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。



各会連絡

ふしん委員会

- ・会館2階のドアの設置。
- ・オフィス周辺のアスファルトを除去し、コンクリートを敷く。
- ・ブロック壁解体のプロジェクトと青年会による仕上げる作業。
- ・バイオトープガーデンや、駐車場の除草作業中

教化育成委員会

- ・新年度 TSA 委員
委員長：弓削ジェネヴィーブ
副委員長：ジオサノ・アニー
副委員長：岡崎晶
書記：雪本ローレン
会計：萱間陽介
- ・今年おぢばで開催される、おやさと練成会の参加対象者に申込用紙を配布しました。申込締め切りは2月15日でした。
- ・TSA 春季練成会を、5月のメモリアルデーの週末に伝道庁で開催する予定をしています。

広報委員会

- ・90周年に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
情報提供先：川上 (kamishuyo@hotmail.com)
林 (takhayashi@gmail.com)
- ・8月の神殿講話から、伝道庁ホームページで日英両語での視聴ができるようになっていきます。
- ・「Stories Inspired by Oyasama」
現在5件が視聴可能になりました。
- ・Youtubeにて「SoulFire」の記録ビデオ（現6件）が視聴できます。



Stories Inspired by Oyasama



SoulFire

婦人会

- ・天理教婦人会第106回総会
2024年4月19日（金）
午前9時30分 於：本部中庭
記念行事：支部の集い
- ・主任と委員部長との懇談会を進めております

少年会

- ・少年会おつとめまなび総会
8月17日（土）於：伝道庁
ご参加いただける少年会員は希望する役割、及びおつとめ衣のサイズをお知らせください。詳細は今月配布する紙面にてご確認ください。
- ・こどもおぢばがえり
ジェネラルグループ：7月24日～30日

- 今年からハワイ団との合同隊となります。申込用紙、詳細は3月～4月に配布予定です。
ご質問は団長岩橋まで。(moto1884@gmail.com)
- ・海外少年ひのきしん隊 7月25日～30日
申込用紙、詳細は3月～4月に配布予定です。カウンセラーも募集していますので、お声がけの程、よろしく願います。
- ・鼓笛隊隊員募集中！道の教友と共に「一手一つ」の鼓笛活動をしませんか？たすけあいや、人のために尽くす喜びを学べる活動を行ってまいります。
- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。

青年会

- ・インターナショナルひのきしん隊
7月18日～24日
- ・教祖140年祭の年の2026年7月18日～24日にもインターナショナルひのきしん隊の開催予定。

NYセンター

- ・2/25 おつとめ衣着付けワークショップ
（女子青年主催）
- ・2027年ニューヨークセンター設立50周年に向け、三年千日がスタートしました。

お詫びと訂正

一れつ1月号の表紙中、JANUARYと記載すべきところJUNUARYとなっております。大変失礼いたしました。

天理教スリーデーコース

天理教では、究極の生活境地を陽気ぐらしと教えられます。陽気ぐらしこそが、私達人間の生きる目的です。スリーデーコースでは、おつとめの大切さを学びながら、どのようにすれば陽気ぐらしができるかについて理解を深めます。

日時：2024年2月23日（金）～2月25日（日）

場所：天理教アメリカ伝道庁

対象：ジョイワークショップを受講した者
修養会（科）未参加の者

受講御供：30ドル

（参加費用、宿泊費及び食費を含む）

内容：講義、ひのきしん、おつとめ、及びなりもの練習、練り合い

90th Anniversary

SHARING OUR JOY OF FAITH
Tenrikyo Mission Headquarters
in America

Saturday
**JUNE
29**

1:30 - 3:30 PM

70th Anniversary Joint
Convention
Young Men's and Women's
Associations
Attended by Mrs. Harue
Nakayama and Mr. Daisuke
Nakayama

3:30 - 9:00 PM

Commemorative program
and Dinner Reception

Sunday
**JUNE
30**

10:00 AM

Tenrikyo Mission Headquarters
in America
90th Anniversary
Commemorative Service

1:30 - 3:00 PM

Reception and
Entertainment



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

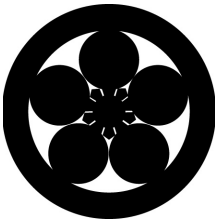
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.